

異文化との架け橋に

本紙エッセー連載 村田さん講演 鶴岡

田川地区高校PTA連合会（中野伸二会長）の研修会が17日、鶴岡南高の同窓会館・鶴翔会館で開かれ、本紙にエッセー連載している「異文化と心通わせ」を連載している「チキン・システムズつくばオフイスサテライト室長の村田佳子さんが講演した。

同連合会は年一回、社会教育への理解を深めるため、総会に合わせて研修会を開催している。今回は県高校PTA連合会広報委員会との共催事業。

村田さんは鶴岡市出身で、筑波大体育専門学群卒業後、オーストラリア

に留学。英会話学校講師、米CBS長野五輪スタッフを経て、JICA筑波国際センターに医療

コーディネーターとして勤務。約120カ国の中途上國からの研究者や行政官の健康相談、診療

通訳に携わった。研究者、アスリートへのコーチング研修も行っている。

本紙の連載タイトルと同名の演題で講演した村田さんは、水泳選手だった大学時代、「ペルーカの女性と自転車でぶつかったのを縁に、言葉を教

え合うようになつたこと

が異文化に触れるきっかけになりたい」と人生の転

機を紹介。留学先のオーストラリアからの帰国に際し、「人と接するのが好きで異文化との架け橋になりたい」と思い、JICAの活動を紹介された

と今の仕事に就いた経緯を語った。

海外の研究者たちとのふれあいの中で「私の当たり前が覆された」と文

化の違いで受けたカルチャーショックの数々についてユーモアを交えて解説し、「温かい好奇心で人と接することを庄内で学んだ」と締めくくつた。

自らの異文化体験について講演する村田さん

